

細見コレクション 若冲と江戸絵画

会期 2025年3月1日(土)～5月11日(日)

江戸時代絵画を代表する絵師として知られる伊藤若冲（1716～1800）。精緻な描写、鮮やかな色彩や自由闊達な水墨表現は、対象を独自の視点で捉えた瑞々しい絵画世界を形成し、多くの人を魅了しています。

細見コレクションの若冲作品の特徴は、初期作と晩年作が見られるところにあります。彩色画の《雪中雄鶏図》や《糸瓜群虫図》は30代の作。絵画制作に専念する以前の作として注目される作品です。一方、80代の筆とされる《群鶏図》や《鼠婚礼図》などの水墨画は、墨や筆を自在に操り描く姿を想像させます。

本展では若冲を中心に、その弟子とされる若演や同時期に活躍した絵師のほか、江戸時代のさまざまな絵画を紹介します。多種多様な表現を通して、若冲の魅力と江戸絵画の奥深さに触れてください。



お問い合わせ：細見美術館 広報室

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 <http://www.emuseum.or.jp>

TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代) kouhou@emuseum.or.jp

細見美術館

— 展覧会のみどころ —

見逃せない初期作

細見美術館には初期作とされる貴重な作品が所蔵されています。1点は若冲の代名詞ともいえる鶏を、もう1点は糸瓜に群がる虫たちを緻密に描いた作品です。後の代表作《動植綵絵》(皇居三の丸尚蔵館蔵)※につながる独特な表現の萌芽がみられます。

※《動植綵絵》は本展には出品されません

左) 《雪中雄鶏図》伊藤若冲 江戸中期

右) 《糸瓜群虫図》伊藤若冲 江戸中期



水墨に遊ぶ

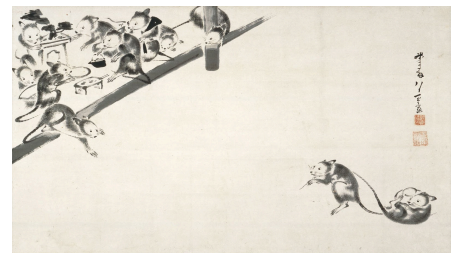
若冲の画業において質・量ともに見逃せない水墨画は、細見コレクションでも大きな割合を占めています。コレクション第1号となった《瓢箪・牡丹図》のほか、晩年作とされる作品には愛らしい動物も。冴えわたる筆さばきと水墨表現の多様さには驚きです。



《瓢箪・牡丹図》伊藤若冲 江戸中期



《群鶏図》伊藤若冲 寛政8年(1796)頃



《鼠婚礼図》伊藤若冲
寛政8年(1796)頃

若冲周辺の絵師

本展では、コレクションの中から若冲の弟子とされる若演の作品のほか、若冲と同じ時代に上方を中心に活躍した池大雅や中村芳中らの作品も展示します。絵師それぞれの筆の動きや色遣いなど、多彩な表現に触れてください。



左) 《釣瓶に鶏図》若演 江戸後期
中) 《児島湾真景図》池大雅 江戸中期
右) 《初夏山水図》中村芳中 江戸後期

— 展覧会概要 —

*会期・営業日時等を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトをご覧ください。

展覧会名称 細見コレクション 若冲と江戸絵画
会 期 2025年3月1日(土)～5月11日(日)
開館時間 午前10時～午後5時
休館日 毎週月曜日(ただし、5月5日は開館)、5月7日(水)

チケット情報 一般 1,800円 学生 1,300円
前売一般 1,600円 前売ペアチケット(2枚1組) 3,000円

販売窓口チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス、CNプレイガイド、楽天チケット、セブンチケット、細見美術館
※前売ペアチケットはローソンチケット、イープラス、セブンチケットでのみ取り扱い。※前売券はプレイガイドにて2月28日(金)まで販売。※細見美術館では当日券のみ販売。※チケット情報の詳細はWEBサイトをご覧ください。

主 催 細見美術館 京都新聞
協 力 芸艸堂
会 場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 <http://www.emuseum.or.jp>
本展連絡先 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚 kouhou@emuseum.or.jp

《事前予約不要》混雑時は入場をお待ちいただく場合があります。



展覧会資料(画像)・取材をご希望の方は、[ホームページリリースページ](#)
もしくは左記QRコード「[資料・ご取材申込フォーム](#)」からお申込みください。